

本校の授業づくりで大切にしている めあてと見通し

R4研究成果

全員活躍を目指し、誰一人取り残さない授業の実施に向けて、めあてのあり方と見通しの中身にこだわっています。

1 めあて

授業中、子供たちが主体的に学ぶためには、一人学びはもちろん、まとめにつながる考察までの道しるべが大変重要であることに気づきました。

また、県教委から示されている「熊本の学び」推進プランにおいても、「なぜ」「おそらく」（疑問や予想等）の『問い』が生まれる導入の工夫が必要だと言われています。

そこで、本校では、できるだけ子供たちの思考に沿い、まとめとの整合性を図るめあてにこだわっています。例えば、疑問形のめあてにすることで、子供の知識、技能、経験をもとに解決の取組ができると考えています。

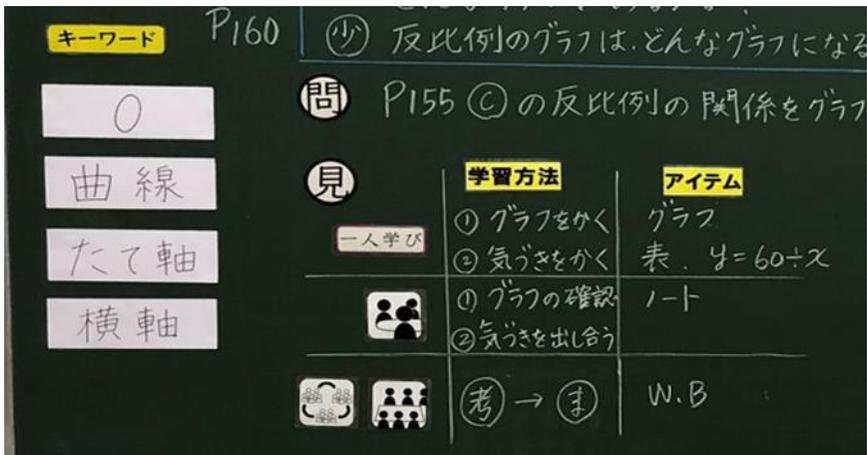
2 見通し

見通しは、教師の十分な教材研究によって作られたものでなければなりません。

授業の進め方は、教科や単元、実態によって変わります。しかし、それら子供たちと共有できていなければ、子供たちによる主体的な授業は展開できません。言い換えるならば、丁寧な教師側の準備があるからこそ、子供たちに任せられる授業になるのです。

そのため、校内研修において、見通しの中の「キーワード（学習内容）」「学習方法」「アイテム」の定義づけを行い、実践化を図っていくことにしました。

全ての学年・学級でそろえることで、学年が上がっても子供たちは戸惑うことなく主体的に学べるようになると考えています。



[キーワード（学習内容）] まとめに使ってほしい用語であり、 本時の指導内容
[学習方法] 本時のまとめまでの学習の流れ
[アイテム] 本時で使用する道具や既習事項